

営農情報

本格的な田植えシーズンが始まり、田植え作業は順調に進んでいますか？
今回は、近年急激に増えてきている田植え後の藻類および還元障害の対策をご紹介します。

藻の発生について

水田に発生する緑藻類には、代表的なものとして『アオミドロ』や『アミノドロ』などがあります。これらは、日光を遮ってしまい水温や地温が上昇せず初期生育が遅れるだけでなく、水稻苗に覆いかぶさりなぎ倒してしまうこともあります。また、除草剤にジャンボ剤を散布するほ場では、うまく拡散できず除草成分が届かない所では早々に雑草が生え始め、逆に除草成分が多い部分では葉害が生じる可能性があります。

対策としては、藻の発生時期が稲の分けつ期にあたる場合は、夕方に落水し、陽が上がる朝方に入水して水を更新します。雨が降れば、藻が解消されるので、水の入れ換えは不要です。水温が30℃以上になれば、藻類は死滅します。晴天続きで藻がほ場に広がり出すと水の入れ替えだけでは抑えきれないので、落水し藻が白くなるまで干すことで藻を死滅させることができます。しかし、田植え後に散布した除草剤(初期剤・中期一発剤)の効果落ちるため、その後発生する雑草に対して除草剤(中後期剤)の散布が必要な場合がありますのでご注意ください。



水田に発生するアオミドロの主な状態(写真上下)

還元障害について

近年、田植え後の日照時間が多く地温や水温が高くなり、土中の有機物の分解が急激に進み「ガス」が発生し、生育が抑制されているほ場が多くみられます。発生の程度により根の活力低下や根張り不良となり、葉色が薄く黄化してきます。田植え後に日照時間が多い場合や水温が高く推移している場合には、水田に足を踏み入れて気泡が発生しないか確認しましょう。また、前作の稲わら等をすき込むのが遅れたほ場は特に注意が必要です。

気泡の発生程度に応じた「水交換」「還元干し」を行い、根の健全化を図りましょう。
地表から水が無くなると有害ガスが抜け、根には酸素が補給されて、根は地中深く伸びていきます。有害ガスがあると、根が横方向に伸び、株と株の間で肥料の奪い合いが始まります。これにより、地表部分の肥料が無くなり、肥料切れを起こす原因になります。また、根が横方向に伸びることで倒伏にもつながりますので左表の対策を行いましょ。



健全なほ場

還元障害のほ場

表 ガスの発生程度と対策

気泡の程度	生育への影響	対策
① 水田に足を踏み入れても気泡が発生しない。	なし	—
② 水田に足を踏み込むとわずかに気泡が発生が見られる。	なし	—
③ 水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い。	根の活力低下	水交換
④ 水田に足を踏み込むと盛んに気泡が発生する。	根張り不良	水交換
⑤ 晴天時に気泡が発生しており、音が聞こえる。	根の伸長阻害・地上部黄化	夜間落水・還元干し

※入水時に上記の確認を行い③④のタイミングで対策を行いましょ。